

H. 17. 5. 30.

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠 様

いろいろとお世話になりありがとうございます。下記意見書を提出します。委員会でお諮りいただきたく存じます。

意見書 総合治水にはソフトが重要

武庫川流域委員会委員 法西 浩

総合治水を堆めるにあたり、私たち住民は何をすべきか。今まで、治水事業はハード面が主体で、ソフト面があまり論じられなかった。しかし、地球温暖化での洪水の頻発に向けて住民自身が自分自身で体処しなければならなくなった。つまり、ソフト面の対策である。

そのソフト面の対策の1つは、居住地の災害に対する適切なハザードマップ作成、啓発、活用である。ハザードマップ作成は、地域住民が主体になり、行政との十分な協議の上でなされなければならない。もう1つは浸水地図を有識者とよく協議して作成し、適切に活用しなければならない。

今述べたソフト面の体策のハザードマップと、浸水地図の作成は急ぐ必要がある。昨年10月の23号台風の被害のあった名塩地区のりバーサイト住宅を考えよう。浸水した地域全域は、実は今後の水害を考えたとき、この浸水した地域全域を浸水域地図の中に指定し、被害にあった全戸は、すべて移転すべきと考える。むろん、武庫川流域委員会で諮るべきだと考える。